

市指定 千人塚古墳 調査成果まとまる

7世紀の須津古墳群の盟主

千人塚古墳は、須津川周辺に広がる須津古墳群内に所在する、7世紀中頃に築かれた古墳である。愛鷹山南麓に広がる古墳群の中でも最大規模の横穴式石室が良好に現存しており、昭和51年7月に富士市指定史跡に指定された。

富士市では平成10年度頃から千人塚古墳を保存・活用するための整備事業を進めており、平成14年度と平成18年度には古墳の現状を把握するための調査を実施した。墳丘の直径は約21mと推定され、全長11mを超える石室からは、仏教文様を取り入れた馬具を



千人塚古墳の出土品



なるまで、もう少しだ。

埋蔵文化財ニュース

2022年(令和4年)5月23日
富士市教育委員会 文化財課
富士市埋蔵文化財調査室

東海最大級の古墳群を築いた人々

愛鷹山に眠る開拓者たち

報告書では、千人塚古墳と同じ須津古墳群内の中里大久保古墳、中里K・97・98・99号墳から出土した遺物を再整理し、その成果もあわせて検討している。その結果、当古墳群の集団が浮島沿ラグーン周辺における水陸交通や馬牧、大規模な手工業・水産加工拠点の管理、軍備を担ったと考えられる。愛鷹山南麓には総数1000基に及ぶ大型

千人塚古墳の石室の奥壁には、承応4年(1655年)に刻まれた仏名が残っている。富士山信仰に関わる宗教的活動の場として、石室が利用されていた可能性がある。



千人塚古墳 横穴式石室の内部



仏教の文様で装飾された馬具(轡)

千人塚古墳 調査の経過と整備スケジュール

2002年～2007年	調査
保存整備事業に伴う発掘調査	
2019年3月	活用
千人塚古墳保存活用計画作成	
2022年3月	報告
発掘調査報告書刊行	

2022年4月～2023年3月	活用
整備基本設計	今はココ!
(約1年間)	活用
整備実施設計	
(約2年間)	活用
石室解体調査 復原整備工事	
2026年3月	
古墳公園 オープンめざす	

千人塚古墳公園の整備に向けて

千人塚古墳の整備事業は、2019年3月に富士市が有識者や須津地区との検討を経て策定した「富士市指定史跡千人塚古墳保存活用計画」に基づいて進んでいる。2022年からは「保存活用計画」の内容や発掘成果を基に、古墳の修復方法や地形の造成方法、材質、必要経費などを示した設計図書を作成する

2026年3月に駐車場を備えた古墳公園のオープンをめざし、計画を進めている。(設計等の事情により、工期が前後する場合があります。)



中里大久保古墳、中里K-97・98・99号墳 出土品

千人塚古墳 保存活用計画概要版

販売のご案内

報告書の

https://www.city.fuji-shizuoka.jp/youku/c0402/rn2o10002a4p.html

https://www.city.fuji-shizuoka.jp/youku/c0402/rn2o1000003undf.html